

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 16 号

第 16 週(4月 18日 ~ 4月 24日)

発行年月日:平成17年(2005年) 4月 28日

発行:滋賀県衛生科学センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

### 1)全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (16週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (16週)	全国 (16週)	滋賀	全国 <sup>(*)1</sup>
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	3	185	9	576
	腸チフス	0	0	18	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	219	21	3,640
4類感染症	E型肝炎 <sup>(*)2</sup>	0	0	17	1	34
	オウム病	0	0	21	1	39
	デング熱	0	1	9	2	45
	マラリア	0	0	19	2	73
5類感染症	アメーバ赤痢	0	1	203	8	580
	ウイルス性肝炎	0	0	94	5	299
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	23	1	53
	後天性免疫不全症候群	1	1	308	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	16	2	85
	梅毒	0	0	152	4	516
	破傷風	0	0	21	2	100
急性脳炎	0	0	76 <sup>(*)2</sup>	1	164	

\*1:平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

\*2:平成17年第14週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

### 2)定点把握の対象となる5類感染症

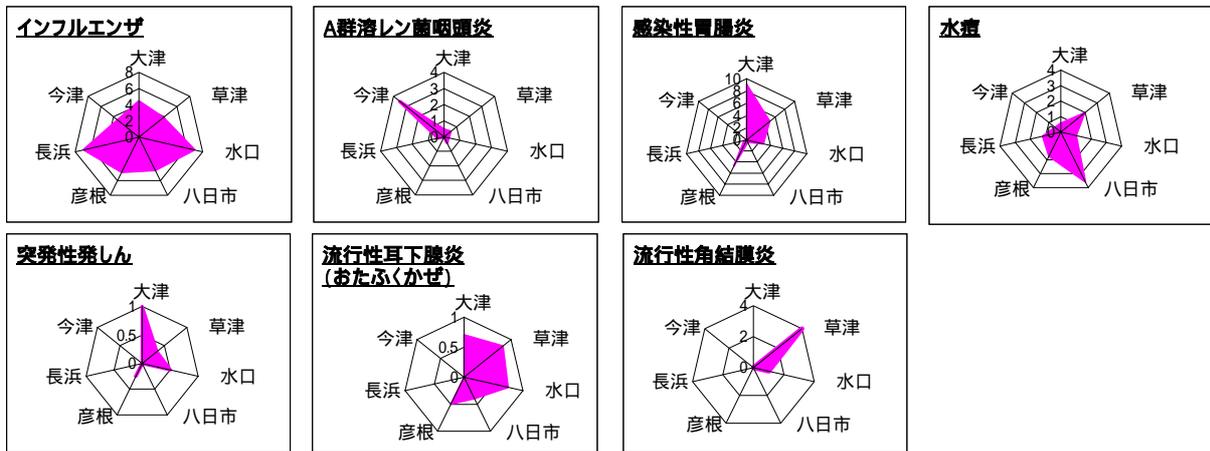
#### (1)疾病別・週別発生状況(第11~16週、3/14~4/24)

疾患名	定点当たり患者数 ( 前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	11週		12週		13週		14週		15週		16週	
	(3/14~)	(3/21~)	(3/28~)	(4/4~)	(4/11~)	(4/18~)	12	13	14	15	16	
インフルエンザ	28.06	23.02	11.57	6.22	6.25	4.84						
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0.03	0						
咽頭結膜熱	0	0.12	0.03	0.03	0.12	0						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.36	0.45	0.55	0.30	0.73	0.55						
感染性胃腸炎	5.33	3.21	3.52	2.76	3.97	3.85						
水痘	1.64	1.24	1.36	1.67	1.45	1.58						
手足口病	0	0.15	0.21	0.12	0.06	0						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.03	0.09	0	0	0	0						
突発性発しん	0.39	0.67	0.73	0.52	0.52	0.36						
百日咳	0	0	0	0	0	0						
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0						
ヘルパンギーナ	0	0.03	0.03	0	0.15	0						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.61	0.82	0.91	0.91	1.15	0.52						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.29	0.43	0.14	0.29	0.43	0.71						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
マイコプラズマ肺炎	0	0	0.14	0	0	0						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

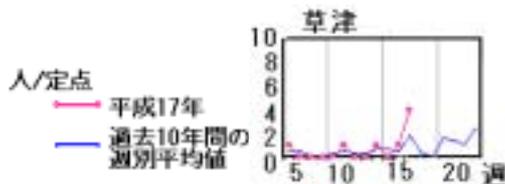
(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第16週、4/18～4/24)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津	
インフルエンザ	4.84	4.36	3.80	6.86	4.50	4.71	6.80	3.33	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.55	0.43	0.50	0.25	0.40	0	0.40	3.50	
感染性胃腸炎	3.85	9.14	4.83	2.75	0.40	4.75	0.40	0	
水痘	1.58	0.57	2.00	1.00	3.60	1.75	1.20	0.50	
手足口病	0	0	0	0	0	0	0	0	
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0	0	0	0	0	0	0	
突発性発しん	0.36	1.00	0.33	0.50	0	0.25	0	0	
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	
麻疹(成人麻疹を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.52	0.71	0.83	0.75	0.40	0.50	0	0	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.71	0	4.00	1.00	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



流行性角結膜炎の保健所管内別発生状況(平成17年第16週)



平成17年第16週の草津保健所管内における定点当たり患者数は、過去10年間の週別平均値よりかなり多くなっています。他の保健所管内における大きな変化はみられません。

今週の発生状況:

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。感染性胃腸炎は大津および彦根で先週よりかなり増加し、八日市、長浜および今津では先週よりかなり減少しています。流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は大部分の保健所で先週より減少していますが、水口では先週よりやや増加しています。また、流行性角結膜炎は草津からの報告が多くなっています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といえます。

\* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

\* 疾患により定点数は異なります。

### 3)今週のトピックス

#### インフルエンザの発生は減少傾向

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(4月11日～4月17日)の報告数よりやや少なくなり、先週、微増を示したインフルエンザについても減少しています。今週、増加を示した疾患は水痘および流行性角膜炎のみで、他の疾患については減少または変化なしとなっています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

**インフルエンザ**については、先週の定点当たり患者数6.25より減少し4.84となっています。第6週(2/7～2/13)から先週まで連続して出されていた「感染症の流行の警報・注意報システム(注)」による**流行発生警報または流行発生注意報**は今週は出されていません。また、各保健所管内における定点当たり患者数は3.33～6.80で推移しています。

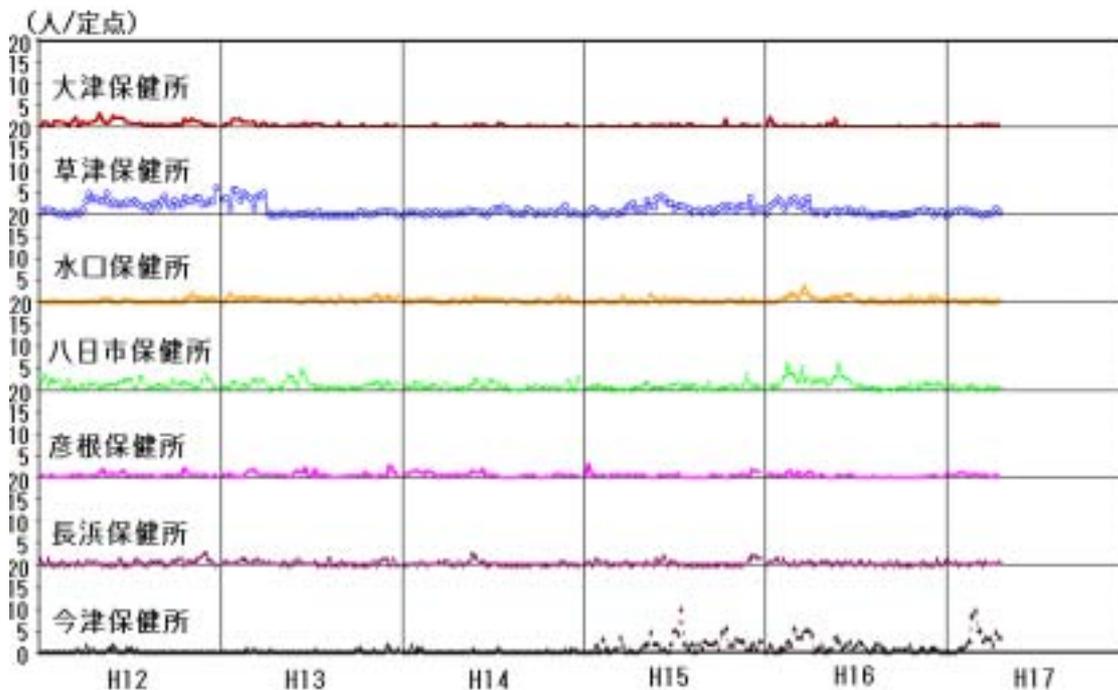
流行発生警報は定点当たり患者数が30人以上となった時に出されますが、一度警報が出ると定点当たり患者数が10人以下になるまで継続して出されます。  
流行発生注意報は定点当たり患者数が10人以上となった時に出されます。

\* 詳細については警報・注意報発生システムとは(国立感染症研究所 感染症情報センター)参照  
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf-ho/guide04.html>

**A群溶レン菌咽頭炎**については、先週の定点当たり患者数0.73よりやや減少し0.55となっていますが、今津保健所管内においては3.50と多くなっています。

**水痘**については、先週の定点当たり患者数1.45よりやや増加し1.58となっており草津および八日市保健所管内で増加しています。定点当たり患者数はそれぞれ2.00、3.60です。

#### A群溶レン菌咽頭炎の保健所管内別発生状況(平成12年第1～平成17年第16週、H12.1.3～H17.4.24)

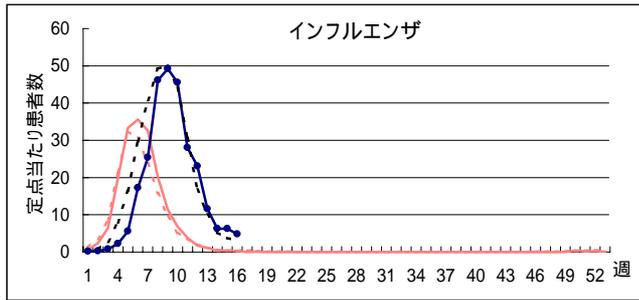


平成12年から平成17年の発生状況についてみると、草津および今津保健所管内をのぞきほぼ例年どおりの発生状況となっています。平成16年については草津、水口、八日市および今津保健所管内においてやや多く発生しています。特に、今津保健所管内についてみると平成15年からの発生は増加傾向を示しています。

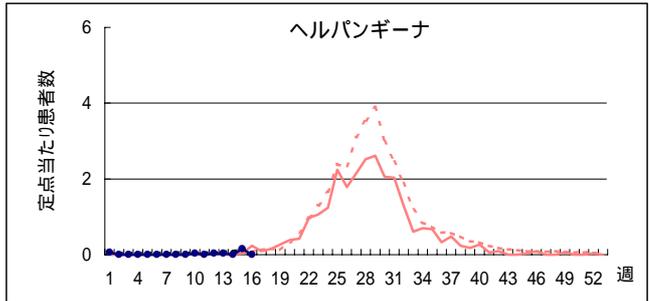
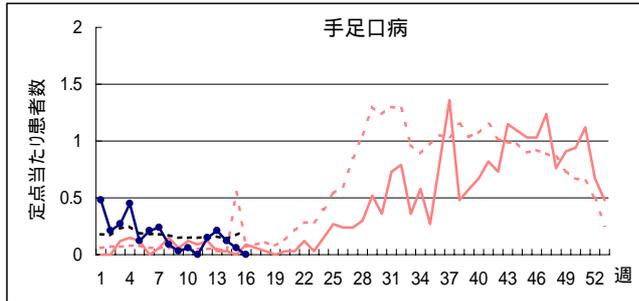
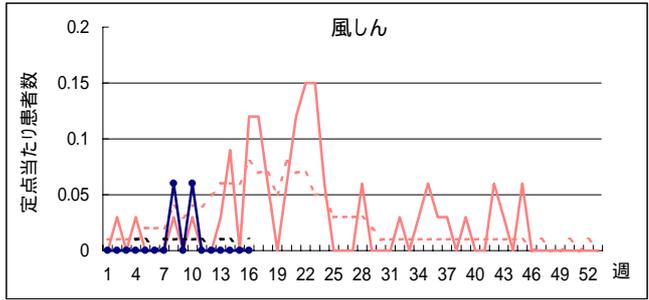
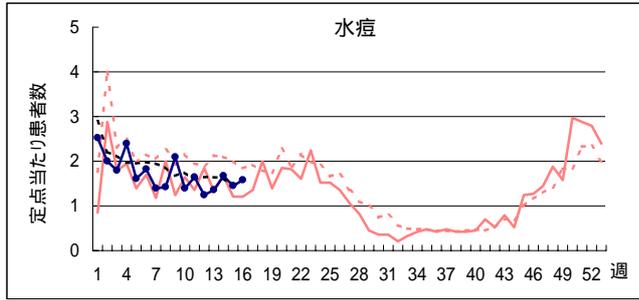
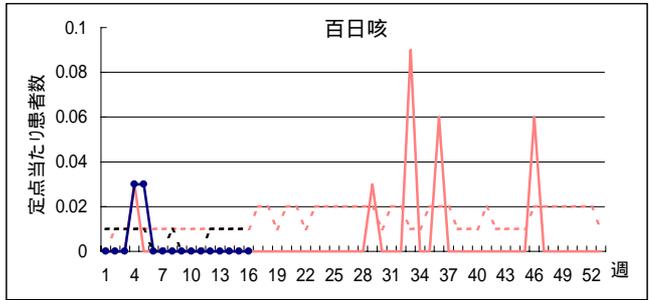
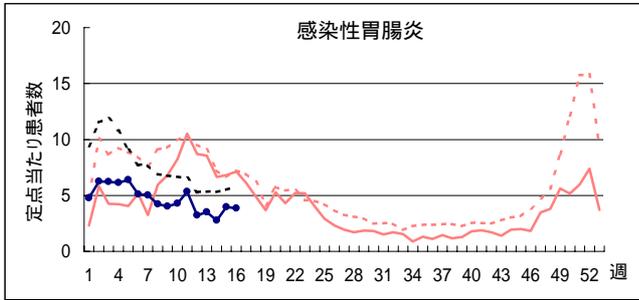
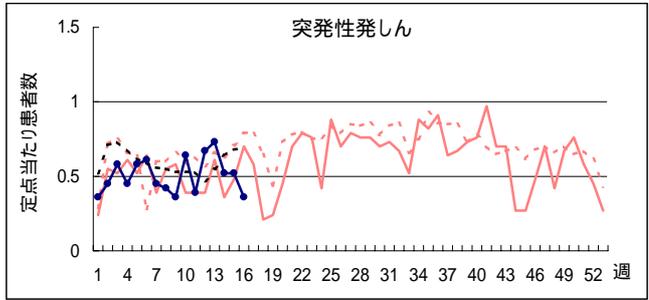
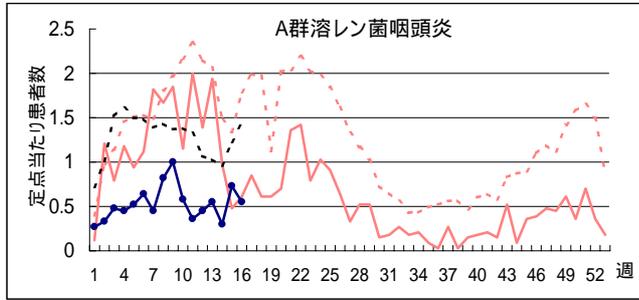
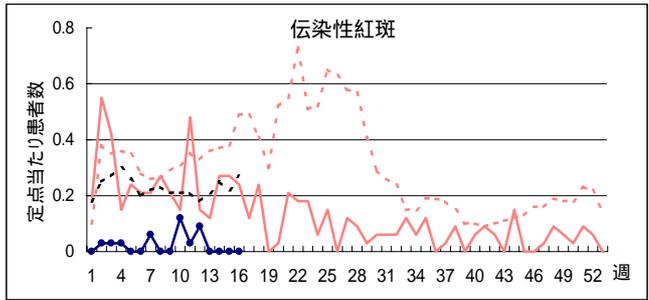
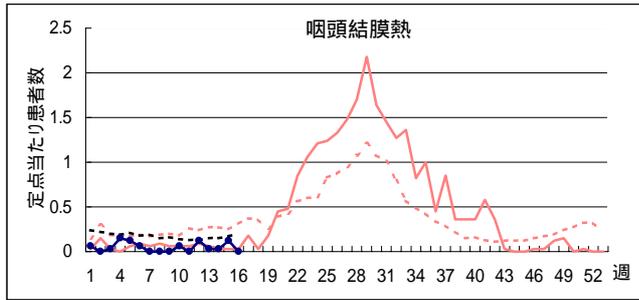
また、平成17年第1～16週における年齢別の発生状況については、3歳が11.8%、4歳が15.7%、5歳が19.7%および6歳が12.1%となっており、6歳以下で全体の75.3%を占めています。

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**  
(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第16週、H17.1.3～H17.4.24)



H16 { 滋賀 (solid red line)  
       全国 (dotted red line)  
 H17 { 滋賀 (solid blue line with dots)  
       全国 (dotted black line)



# 疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第16週、H17.1.3～H17.4.24)

H16 [ 滋賀 ———— 全国 ..... ]  
 H17 [ 滋賀 ●——● 全国 ..... ]

